

全健保組合の2014年度予算状況から見た

IBM 健保組合の財政状況は？

- IBM 健保組合を他の健保組合と比較してみると…
- 医療費の高い伸び、一層重くなる納付金負担が財政を圧迫

「My Health」では、IBM 健保組合の厳しい財政状況について毎回お知らせしてまいりました。前号（80号）では、このような状況の中、保険料率を引き上げて2014年度予算編成を行い、その概要についてご報告しました。では、IBM 健保組合の状況は健保組合全体から見たらどうなのか、健保組合の全国組織である健康保険組合連合会（健保連）が発表した「平成26年度健保組合予算早期集計結果の概要」をもとに見ていくことにしましょう。



2014年度の健保組合全体の現状 「保険料率を引き上げても、なお赤字に」

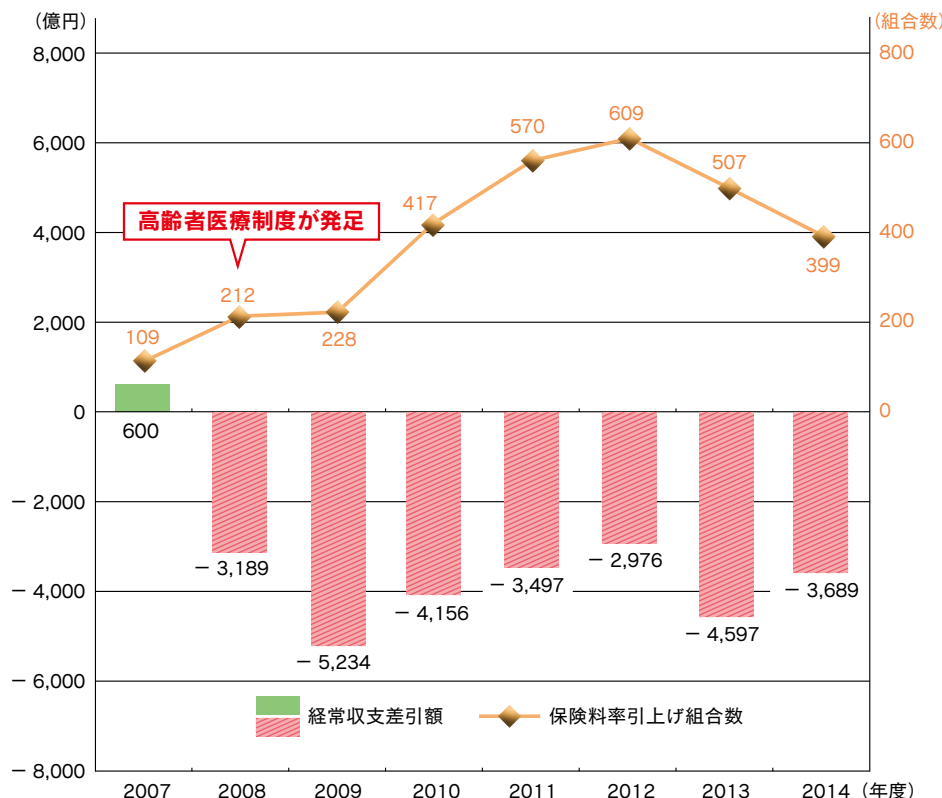
健保連によると、2014年度予算が経常収支で赤字となった健保組合は全体の約8割に上っています。一方、収入の柱である健康保険料の料率については、IBM健保組合も含め約3割の組合が引き上げており、収入面での増加を図っていますが、それでも大部分の健保組合が赤字という状況です。

また、2年連続で保険料率引き上げを行った健保組合も155組合と、引上げ組合の4割近くに達しており、これらは厳しい状況が毎年のように続いていることを示しています。

特に今回の予算集計では、一人当たりの年間保険料の推移を示していますが、現在の高齢者医療制度が充足する前年の2007年度と比べ約8万3000円（21・6%）も増加していることが指摘されています（裏表紙参照）。

これらの結果、全健保組合の保険料率の平均は88・61/1000とさらに上昇し、協会けんぽ（全国平均100/1000）以上の健保組合も251組合（全体の18・4%）に達しています。一方、重い負担が課せられている納付金（後期高齢者支援金・前期高

グラフ①
経常収支状況と保険料率引上げ組合数の推移



年齢者納付金）の保険料収入に占める割合は平均45・4%、50%以上の健保組合は446組合（全体の32・6%）に上ります。これは、保険料率を引き上げて収入増を図ってもなお、保険料の半分以上を他の制度へ持ち出さなければならない状況を示しています。



→ 16頁（裏表紙）もご覧ください。

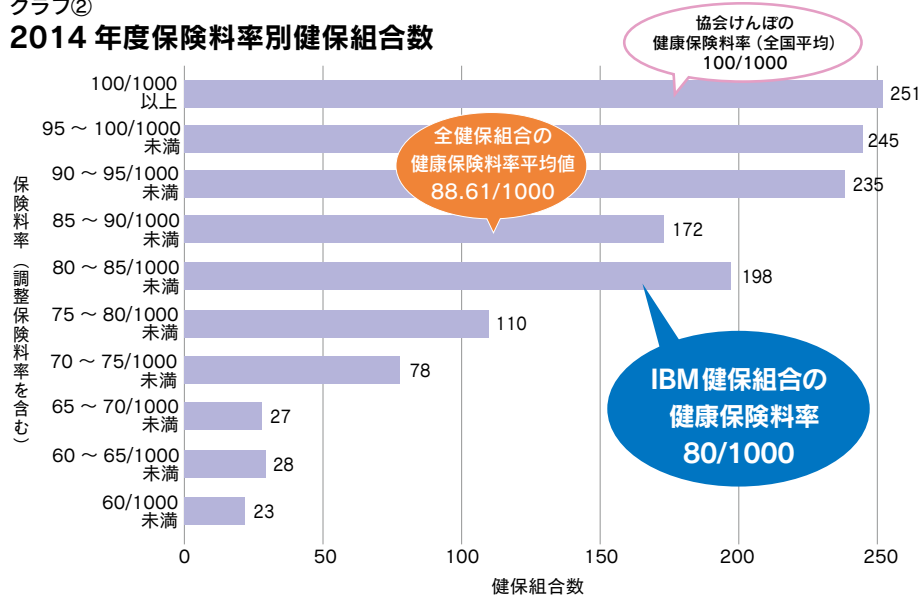
（注1）2007～2011年度までは決算、2012年度は決算見込、2013年度は予算、2014年度は予算早期集計の数値。
（注2）保険料率引上げ組合数は、2007～2012年度までは前年度決算、2013年度は2012年度決算見込との比較。
2014年度は予算データ報告組合（1,367組合）と2013年度予算との比較。

平均より低い IBM健保組合の保険料率

前号でもお知らせしたように、IBM健保組合の2014年度予算では、不足する収入を補填するための積立金等が枯渇していることから前々年度に引き続き保険料率を改定し、ようやく予算編成を行うことができました。ただ、改定後の保険料率は80/1000であり、グラフ②でわかるように、全健保組合の平均からはまだまだ低いといえます。

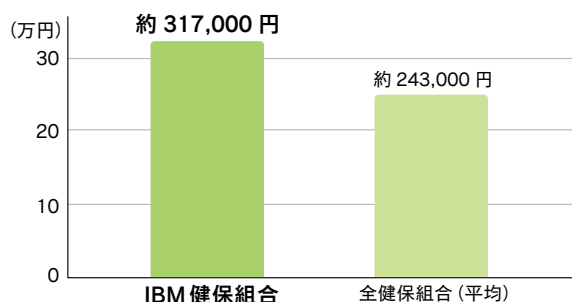
グラフ②

2014 年度保険料率別健保組合数



グラフ③

IBM 健保組合と全健保組合平均の 法定給付費比較 (被保険者一人当たり額)



※2014年度予算ベース

※加入者すべての法定給付費を被保険者数で除した額

では、IBM健保組合の財政状況は、保険料率を改定したことにより、他の健保組合に比べ良好な状況にあるといえるのでしょうか。主に加入者の医療費に充てられる法定給付費をみると、被保険者一人当たり約31万7000円で、全健保組合平均の約24万3000円を大きく上回っており(グラフ③)、医療費等の支出に多くの予算を割かなければならない状況です。したがって今後、もし、想定外の高額な医療費支出が発生した場合には、予算が不足する事態も十分考えられることといえましょう。

後期高齢者支援金への「全面総報酬割の導入」で負担は増大、再び赤字幅が拡大へ

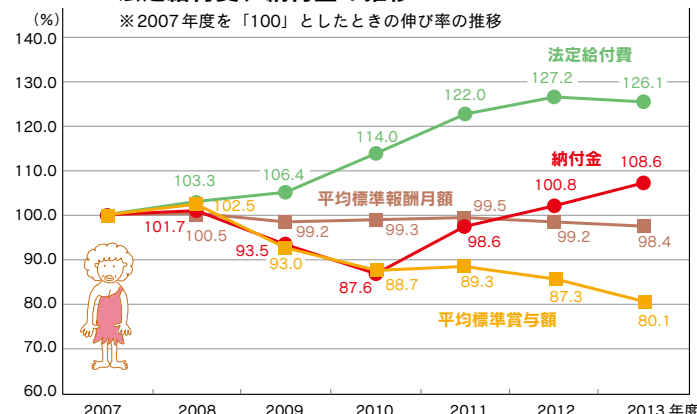
している被保険者全員の報酬総額が高いほど支援金の額も高くなるというしくみ(詳しくは「My Health」78号参照)で、実施されれば、IBM健保組合等は一層重い納付金負担増を強いられることになります。そのため、再び予算編成に支障をきたすことも予想されています。

IBM 健保組合加入者の近年の傾向をみると…

医療費の伸びは高止まり、納付金は急増

グラフ④のように、IBM 健保組合加入者(被保険者)の報酬月額(給与の月額に相当)はほぼ横ばい、賞与額では減少傾向にあるにもかかわらず、法定給付費はここ数年、2007年度に比べ20%を超える伸び率が続いているほか、納付金は年々、伸び率が高くなってきています。

グラフ④ IBM健保組合被保険者一人当たり報酬月額、賞与額、法定給付費、納付金の推移



→ 4～5 頁も
ご覧ください。

2013 年度
決算